



大岡
政談

元岡維則著
村井長菴調合机

三編
上

214
873
7



門一處
號 873
卷 7

大岡
政談
村井

奸縱踏從

半自漁人元岡維則

謀有險來

豈才行兇

敵偏危賊

與長馳禍

仁誑意良

人語頻民

大岡
政談

村井

長菴調合机

明治三十七年
十一月十日
聚榮堂

大代篤屋書

維則

和樂

序

元岡維則著
伊藤静齋畫

大岡
政談

村井長菴調合机

聚榮堂藏版



意是千郎似敵讐諫爭
言強越生憂題情遊冶
魂迷漠寄語青娥泣下
樓花綻雨前塘上月樹
枯霜後滿庭秋道竊謀
盡重招禍太息神心自
不休 元維則題



伊勢屋千太郎

伊勢屋主管久八

遊逸多年俠客身看
花賞月不憂貧有時
英氣探奸賊一叱豪
言驚萬人 維則題

俠客蛭八



俠客蛭吉



於
於
子

劍法熟終心膽豪離
鄉一婦恣遊朝山中
斬賊身尤捷竊帶腰
問三尺刀
三樂道人維則題



於
於
子

仁
九
三

村井長庵三編巻之目録

第十三回 奸醫の智計暗夜危難を脱す

第十四回 一夫乃窮厄兒を路上に捨つ

第十五回 直士閑窓ふ少年城説論

第十六回 事情を察して義僕主の決死を止む

第十七回 敗家に宿して旅客妖魔に逢ふ

第十八回 勇婦山路に兇賊や鬭争す

静齋

大岡政談 村井長庵調合机巻之七

東京 元岡 維則 編次

第十三回 奸醫の智計暗夜危難と脱す

小人落俗の噂と傳ふ。穢拙の巧のまき。まきば長庵の回南
乃小道中者。怪八怪舌の兩個に難題と云掛らむ。運答を
らるまき。一討にせん勢を。い今ハ通はぬ。やと。是悟を格先。
包地一針と業。中して暗と毒に情ある。今をのる。トト九中。
神より神に。二派に。速く。此傷とまき。と。云ハ。ぬ。け。を。先
丹く。知。ま。ね。の。悪。不。者。と。派。悟。り。は。く。書。後。か。今。と。神。の。肉
い。く。も。死。り。候。者。と。權。威。よ。お。ま。さ。た。る。体。に。と。そ。あ。り。透。と。窺。ひ。急

たるぞ。倍の男の建来りて怪しき波舟を渡りけり。たると
 むしめ。明白に悪せしき。身入の長宿は息つきた。在りては
 赤白の法と我と水中に投入れたる。溺れ死んと思はれ
 命を限りて身ごとくさらた。此場のしき。借し命の色を
 懐より取り。お倉へ落し。思ふたり。命の室ま相流すまはし。
 少むち念のく探し。必きゆんり。疑なり。まのこなくは。
 狼々の小柄も落し。にま。斯くの責書に。ひ。争で作と中
 へ。は。い。の。命。の。と。由。け。り。と。只。借。り。勸。解。つ。方。人。を。思。ひ
 ひ。を。依。り。て。手。と。合。一。拜。め。ぬ。極。入。け。の。極。と。り。て。借。書。に。為。ひ。
 コハ。金。を。水。中。に。落。せ。し。ま。も。一。程。の。そ。の。難。事。を。救。ん。を。助。け

運んを。おの胸中如何ゆへ。同念を。は。借。り。勸。解。つ。方。人。を。思。ひ
 成。一。命。を。死。し。て。空。に。お。の。為。舟。も。成。り。と。命。を。は。く。成。り。と。り
 あり。商人の助をも。救。け。し。ま。も。一。程。の。そ。の。難。事。を。救。ん。を。助。け
 有ぬし。は。奴。に。探。ら。ま。も。る。に。ぬ。り。か。し。と。接。移。し。極。入。を。飛
 あり。と。お。の。そ。の。難。事。の。論。じ。や。と。れ。長。宿。命。計。り。の。助。け。返。し。を
 して。是。より。川。へ。の。り。落。せ。し。命。格。ひ。ま。も。る。と。り。と。溺。れ。け。り。と。溺
 る。難。事。も。か。し。と。速。く。と。通。り。と。ま。ま。も。長。宿。の。難。事。に。助。け。を。困
 下。果。け。し。と。も。吾。も。が。難。事。も。思。ひ。を。冷。ん。か。く。も。と。思。ひ。に。は。せ
 や。と。し。起。り。つ。く。と。中。に。の。り。は。あ。り。と。大。事。の。場。合。も。と。し。冷
 たり。と。借。入。難。事。に。お。の。探。る。難。事。を。か。し。と。も。と。働。く。と。も。と。思。ひ。を

揺るに蛇八幡吉の二個の草系に毒を成し。おちた具を知らず
 火を煙草にうつし。数度う咽管を吹つ。唇を激し。また
 不托の傍と探る。此方の柳の下と探探り見よ。烈く掛け
 更に止ん。毒もなす。長居の為別な業に。苦き事。えけり
 かく。月體己に冷く。且。疲も。今。悔。兼。く。お。人。に。向。く
 中。指。心。籠。く。見。ら。る。く。や。探。せ。ど。も。何。も。に。落。ち。や。更。に。手
 更。に。當。る。事。中。く。月。も。痛。く。冷。く。は。後。に。お。り。ま。す。雲。ね。居
 を。我。命。を。為。に。終。り。お。ん。女。中。に。死。ま。す。も。お。後。者。が。な。に。掛
 つ。く。命。を。断。も。理。の。一。く。今。の。是。を。道。も。成。せ。今。の。包。の。暗
 影。お。り。お。り。最。難。り。は。よ。い。我。を。殺。し。女。を。を。殺。さ。す。

しく。つ。淵。に。お。ち。揚。ま。す。二人も。長。居。が。頓。り。に。ん。と。死。り。雲。に
 仰。と。見。る。く。お。ち。怒。を。お。ら。げ。お。も。さ。さ。る。冷。油。を。汝。を。水。中。へ
 投。げ。我。が。逆。火。を。ま。す。と。止。取。け。込。ら。ま。屋。へ。お。明。あ。い。ん。と
 席。も。も。能。く。推。し。會。令。の。包。出。ま。ん。と。以。一。事。油。の。詰。と。後。の
 必。を。報。せ。ん。據。に。汝。が。今。金。の。出。さ。す。と。お。も。り。に。有。り。心。持。し。う。と
 示。せ。た。不。敵。の。長。居。は。海。へ。心。密。に。脱。び。魚。の。網。中。を。脱。す
 如。く。今。も。心。お。し。と。満。ち。る。お。脂。を。お。招。に。抱。く。速。く。お。返。り
 月。と。温。め。ま。ん。と。命。も。助。り。難。く。我。も。より。持。病。の。毒。を
 宵。り。今。も。命。お。ち。換。難。く。結。臣。推。し。ら。の。お。ん。の。必。死。あ。り。う
 次。松。に。油。を。お。ち。ま。す。と。お。探。を。し。く。は。傍。を。逃。れ。り。り。り。海。に

輕ハハ博者にお向ひ。昔者青砥屋の藤綱おめり川に
 少シの錢を落し。國王の室の朽漆人を惜心と推きて捨た
 と世の人目に傳ひまじり。況や大合の色と。世の心と結ばは
 底の空字も見え合ちあん。捨つては愛に夜を明し。金と探
 り丸んに高儀あせ。博者もむと忽か。稍一時余り。種々
 乃物修り敷し居たる。後まを有也。忽地て人の若人の魚籠と負
 たるが。此方とまじり。赤ひまを有り。博ハと見え。世を掛け。和皮
 違ハは愛に有く。何事と當り。うらみ。夜釣の居り。はくも
 有み。やと君ね。回け。は。輕ハハ。多に。面を。掲げ。然に。遊。我々
 と。本所の方へ。通。り。成。ま。者。ある。が。是。刻。過。り。今。の。一。色。を。は。乃

川流へ落し。は。博。者。丸。ん。お。も。暗。の。夜。の。見。分。難。く。悲。ハ。と。ま。じ。り。

も。も。ま。じ。り。明。目。の。報。復。者。さん。の。の。と。は。愛。に。お。入。居。る。か。り。と

語。る。壯。俊。い。毛。と。聞。より。進。む。寄。り。ッ。ハ。又。心。無。き。事。と。成。した

せ。ひ。ぬ。え。と。め。く。世。の。肉。に。は。尋。ね。難。う。り。わ。ん。吾。母。水。練。子。之。有

せ。ば。を。博。者。と。推。し。ま。せ。ん。最。易。き。業。か。ら。ら。る。夜。の。時。に。し。り。推。り

取。に。ぬ。ま。し。博。者。の。宅。本。博。の。辺。に。く。社。迎。ま。に。有。り。未。だ。あ。ら。ず。に

以。け。や。ら。を。表。裏。に。當。り。去。く。は。愛。に。居。る。り。月。體。の。為。に。成。ら

ド。破。れ。家。の。む。と。く。ら。け。ま。と。苦。し。う。と。ま。ま。を。せ。は。む。つ。て。一。色。を

成。り。あ。へ。り。我。を。深。ま。は。く。梅。市。と。呼。ぶ。者。に。有。り。と。美。庭。も

ち。く。老。妻。に。あ。る。は。く。輕。ハ。博。者。の。三。個。深。ま。の。体。初。を。悦。喜。び。然

ら六言美に随ひ。一夜の世活に終らんと終にお連きて楠市
 の跡に随ひ。幾く佳儀に著しけしは。隠入の酒を。買求てまに
 吾一の難儀時を終して。主客互に一間にお附し。暫しつ枕乃
 着と結ぶ。おかろ。酒あつく。東方を。渡り。群鴉曉を。昔に。
 楠市の速く起せ。二人の客を。起し。人の心付さる。由に早く
 彼場に至らんと。過さま。二個も。おの。あけ。と。喜び。寝て。身支
 度なり。楠市と。結ぶ。昔を。場におり。おの。心。當り。如。び。と。教。由
 せ。楠市。お。終つ。て。衣。被。を。脱ぎ。手に。籠。と。持。て。川。中。に。入。り。喚
 び。揮。き。雲。さ。る。丸。二。時。計。り。お。る。に。合。の。包。の。終。に。着。ら。ま。し。と。く
 赤。洞。の。小。橋。一。果。と。ほ。り。り。橋。の。傍。吉。の。二。人。も。同。じ。く。川。中。に。今。

甚矣此交と。挨拶ねども。聊も有ま。今。今。淫。方。か。と。者。因。へ
 揚り。二。名。の。対。お。より。早。苦。後。と。お。中。て。楠。市。へ。と。人。合。の。出。す
 とも。お。後。が。披。堂。々。十。分。か。り。自。体。の。病。吾。て。お。る。ま。し。と。く。件
 の。拾。ひ。け。小。橋。の。お。終。り。楠。市。が。物。と。感。さ。し。め。別。れ。く。少。石。川
 へ。ま。返。る。道。さ。ら。も。甚。儀。の。好。威。金。控。を。難。し。ま。し。と。く。計
 策。を。定。め。り。又。く。定。め。押。り。んと。遣。し。合。せ。お。白。字。決。私。に。お。り。の
 頼。末。と。物。治。り。並。に。幸。山。甚。郎。に。も。有。し。始。末。落。ち。方。を。と。く。告
 知。せ。お。お。又。頼。向。に。赴。ん。と。濁。ち。を。お。四。郎。の。思。案。を。激。し
 て。忽。地。お。人。を。判。し。終。り。に。事。と。暴。に。謀。る。も。官。一。う。と。お。る。事
 有。り。聖。人。と。お。お。汝。に。お。る。物。文。汝。に。返。ると。天。空。松。が。早。中。找

情を以て自ら其令居る所も有らん又人をけるの道心違ひの爲
 損多し少く字を見合ふ。寛く計策を施し水と海言を如き
 を之も從高儀也。是は後の後も一理の無に有らず。兎もれ四日
 とを以て彼が虚実を窺ふ處へ一とて。其鞠町に在る事を
 止り。若我家に送りけり。おをも長庵の卒ふとて。鞠町に送り已
 が家にへく。漸く安堵の思と成せし折うら。と波も難無く
 返りつ互に無るの面會を恨び長徳先づ形に衣箱を被く此
 にありホト溜息つとて。三次に向ひ我未だ斯る難儀に送し
 事なり。和を逃せし後乃始末おとまりと水底を掻搦り
 たる事たまりと砂りおとまりおとまり。早くと

酒杯と酌で心神を補んと急ぎ酒宴を催し。香を以て三杯等
 と暫く香お愛く示し極み事に送致等と欺詐り。今今令
 ちねど。我を送らしむる時にあり。明日も庭を掃つと。令出立
 んを後の苛刻き報と為んと云へり。先より落さる令の如き
 極も世に送致等暴行ある男共あるは後の油刃なり。殊更
 に一個の男おまの送し。時令と懐に。て去りしと推しぬ
 ても。我のこも。和を以て事心成り難し。知何ある男難
 束らんも知し。我を難と拒むの御影に。玉を成せり。今
 へ。和を以て男のこも。思ひに我使の考とあり。速く三杯小卦
 き彼方極度を賣渡す。令に換るの道を謀らば。早くと



長菴

長菴



二個の伎客長菴とて金の包を探らしむ

蛭八

蜻吉

丹阿弥

長菴

おぼろのまわを。きつちんとわらち。容子を細々と握り。今ももら
 おうのこて。おにを。たの。長。お。の。あ。の。あ。の。あ。
 此も。今。と。借。の。術。や。者。と。後。の。金。と。南。後。の。思。入。り。も。た。る。
 あり。使。者。等。油。と。り。と。借。り。果。と。利。て。に。勝。後。に。長。方。と。較。し。も。
 若。ん。志。あり。一。の。温。柔。の。一。計。に。較。計。の。事。と。し。も。路。上。に。堪。入。
 出。り。め。一。金。も。奪。ち。る。と。い。は。も。若。ん。兵。書。に。所。謂。柔。し。と。
 剛。と。較。す。今。ま。基。的。中。せ。り。何。て。に。勝。り。堪。と。る。事。と。し。も。柔。し。と。較。
 と。較。せ。ん。め。の。と。一。の。他。品。川。乃。驛。に。あ。る。に。柔。し。と。較。す。と。し。も。
 中。好。う。り。一。特。に。税。の。に。た。と。なる。者。は。地。に。住。居。し。と。し。も。
 お。も。た。た。一。の。國。思。ひ。出。で。強。り。先。あ。る。も。思。は。る。わ。ら。ひ。は。た。と。し。も。

一。發。見。す。も。と。借。り。に。た。と。し。も。一。の。古。れ。朋。友。な。
 り。と。借。り。す。と。も。借。り。に。た。と。し。も。一。の。何。の。事。も。と。し。も。
 遠。方。に。赴。き。と。尋。問。入。り。と。し。も。一。の。長。方。が。為。に。使。さ。る。事。實。具。に。後。
 り。存。す。と。し。も。一。の。あ。ら。の。事。も。に。借。り。と。し。も。一。の。見。え。と。し。も。
 と。思。ふ。と。し。も。一。の。た。と。し。も。一。の。思。ひ。ず。と。し。も。一。の。強。さ。と。し。も。
 に。用。さ。る。事。も。一。の。名。海。時。と。し。も。一。の。山。に。た。と。し。も。一。の。目。も。可。に。は。さ。る。
 若。し。一。の。一。の。其。他。に。赴。き。借。り。取。戻。す。と。し。も。一。の。思。ひ。長。と。し。も。
 かり。勝。り。地。の。ら。わ。ら。い。等。閑。つ。も。早。二。ヶ。年。と。し。も。一。の。は。と。し。も。
 ま。中。の。連。か。り。と。し。も。一。の。若。し。に。た。と。し。も。一。の。強。さ。と。し。も。一。の。思。ひ。長。と。し。も。
 の。生。活。か。り。と。し。も。一。の。若。し。に。た。と。し。も。一。の。強。さ。と。し。も。一。の。思。ひ。長。と。し。も。

只命を限り逃去たり。左郎奪返せし銀色迷く賈人に渡り。賊の跡を慕ひ追ひんとするを。賈人の呂管に押止め。山形をて大切の品を戻りたり。外に奪返し物一つに有るを。悪振返せぬ。其後に控をぬり。赤い糸の色たふ金ふせ。我も主人命を難にひくと。若しはた。新も強く。賊を追ひ。和を己に偷ま。是く。器物財にあ。と。か。を。云。に。任。せ。賊。を。見。遣。ま。ん。去。に。ても大切ある。器物を携へ。流更に及ん。何事へ。い。ぞ。ハ。不安心ある。る。に。と。と。同。く。賈人頭を携へ。何路へ。入。僕。に。神田の河町中。質支那の酒世ある。伊勢屋五三。流と。云。老の召使ひ。名。久。八。と。呼。び。は。考。は。色。の。中。あ。る。い。ま。入。を。流。去。る。

第事方より頼り。質物。今日僕主人の許へ。持返る。に。は。若く。通。り。あ。ま。た。な。ま。り。聊。も。か。け。目。と。打。あ。り。く。後。安。の。あ。ま。り。人。留。中。に。は。返。り。あ。る。と。流。居。り。たり。形。に。迷。別。は。り。と。迷。ふ。左。郎。思。案。せ。り。こ。河。町。の。通。り。は。も。有。り。今。宵。の。あ。ま。り。問。も。あ。ら。う。は。賊。難。の。逃。れ。目。と。亦。は。先。に。あ。ら。あ。る。あ。ま。り。出。逃。ん。も。知。り。ま。す。然。し。も。取。戻。し。せ。し。品。金。一。と。持。返。し。ま。む。と。不。い。ま。も。断。に。賊。に。我。等。の。小。物。か。わ。り。に。さ。し。り。は。流。を。う。り。若。く。に。家。に。も。り。一。番。の。お。お。り。と。ま。の。身。他。に。一。流。せ。り。お。お。り。今。乃。論。生。ぜん。あ。ら。う。と。我。の。自。序。者。ま。の。目。道。し。て。ま。に。る。の。由。と。物。流。り。お。ま。が。迷。惑。に。成。ら。し。ま。し。流。汁。の。ま。い。り。入。迷。と。老。更。

藤川の驛
吉兵衛
愛見と
捨つ



大岡政談卷之七

〇十五

辰屋本堂蔵取



大岡政談卷之七

辰屋本堂蔵取

に菊とびつぐ入其後其の然らば思に悔らんと其に申てた
 一郎の海に船の道まじり種々の物落しの處て申梅に吐きとて弁
 がらに其後とて一ぬおとにたと思概おく武士のぬに奪せひ
 一色とて其後とて一ぬおとにたと思概おく武士のぬに奪せひ
 有まをそと無事せむとて此の路夢の事まきん老に還と港
 り。海船せぬぬに遊るものとよなこ。海船せぬぬに遊るものとよなこ
 とて此の路夢の事まきん老に還と港
 と借まきりて作らむ。姑且置て。五七日の合に携へられた
 づは集むる合と合。十金更らむの路錢まきまきけむ
 今いるものや下とて。白紙に梅のまきと成。三つと若に西

と指してを奪りぬぬ梅は往永五郎曾人久八と送
 て。此日伊勢の商店にあり。五人五兵衛に對面して。息に昨
 夜の悪事と語り。久八を引渡さるばむ。湯俵頭とてはく。息
 と謝。息はさういふ。形に其の間に清めて。原く管
 悪事とて。息はさういふ。形に其の間に清めて。原く管
 後後並別に及んぬ。と申し。再會と物。別れて。家に還りたり。
 室の久八が母の甚歴如何と。老と若。に最悪。と物落
 有り。貞享年中のひかり。京から出廻りに。安養寺とて。大
 刺さる。其が門前の西家に住居する。吉を湯とて。壯俊有り
 けり。家業の割とて。身の職と成。巨商豪農の家。に出入りて。

業いむ功者し相方にく書一居りけんも妻と動るるま
 く。極くまゝ人の媒物也。尾久とまゝと女と連へ妻に成りけり。
 理文美し容貌華々の人に超へ神聖人おの書に成り一書惜
 き者せん。見る人毎ふと命りたれば古き傳も一方ありて固を
 掛へ主婦の中益賤まじく。階老回宅の契法かゝりて極く
 はれとふ内元祿二年の四月とふ。あのかくある男と女に傳け主婦
 の書読大方かゝりてはも裏の蝶花と愛し一書内に向ひて尾
 久時渡に罹て。発熱まじく。次第に痛まら。かゝり湯米効か
 く。日と経く危病に赴きまゝる古き傳易かまじく。はと
 神傳の恩復不飲らんものぞ。法もまゝの天神冥協と礼拜

し。心算と掛け魂と推く妻の全性と傳りまゝとまゝり有る
 合敷良野の効たにた。迷くに疲衰へ今。軽く少き有形は若
 妻乃抱えに膝かあせ。彼是と物も厨先片。復會へよ。
 素香ねや老老まに看痛つ。夕別もた慈し。妹と背の目下涙
 に依。常乃腹に放ち。枕野の雛子。極く成る稚子。捨り親
 の心の由書いまげに頭を掻け。妻たる親もく。更け而部と
 果得り。心に掛る。い。女子と。ま。ふ。ま。も。は。ま。乃。眼。亮。に。器。教。か。く。
 幾りはけり。男か。ご。ら。も。若。き。清。い。流。に。言。さ。さ。な。す。い。し。ま。目。り。
 云々。ひ。一。事。が。に。か。く。別。く。個。の。四。年。も。も。流。を。も。未。だ。と。く。
 ま。五。婦。子。に。あ。つ。別。れ。と。成。ま。あ。ま。い。れ。れ。め。も。有。る。ぬ。ま。心。地。非。

たる形乃頼瘦て昔ゆまゝる春れとて落る涙も堰きか
 きを難に取付の考を放つて感々一と一旦俱漢へ去りて魂
 の亦返り来ぬまじ留もわく有べきにあらわば泣く茶煙乃
 式と取付の夢懸とて雲野乃大徳寺に葬て佛事と懸に言
 と一個孤鬼と男乃まづの音て誓し時日と送りたりしがそ
 實くくちく乳母と抱ゆべき力もかき播と展く心奪まらん
 乃家と保り少一汁の乳と煮く煮まつらとわに磨ん掃も
 空之妻の病中より家職も怠るの目けまき終の将令も違ひ
 空しく今一戸と保ち得る幸成難けまば名も角やけん
 して人情を尋思とて空免大地を遠隔もぬれども親族の

若東坊に有り身ねりて身乃艱難と語りあつと相傳成さ
 ちぬと念心と決めく小児とて何せにも人に善ん物とて先
 人に傳種とて梅の花と求めくちやも折あしと思を
 誓ひんとてまゝの人に忠直を斯くの果極からびと誠に誠を
 愛おひまに強弱の準備と誓ひ色の人と等し眼をくそ見
 と儘に成り佐則一丸山とまきく心細くも其國路にちり路上
 病り病りも人に抱きての乳と煮く煮免旅の最愛くも病
 てと世間術の城下まきわたりけぬさねと旅店の縁石をま
 とらるに一滴とて夜とまに元越方を思ひやう天と仰て漢
 島一女子と入まづりせの斯連難波をまきまきとまきぬ

路費もろくも車で舟をとり江戸に到着せん初る愛目を見ん
 よりいづれも妻と諸君死たりを今の困難をせむしものを修
 討の書乳の為らぬ務かるる養育に保てる命の有らして母ハ
 瘦つても此の健うま縁有く親子と成り何知らぬ見に此の憂
 苦を見んもも過世の因縁あるう親の身さくも塵々せを道
 途に迷ふも目前に有り不便の強増る限りをけきと今も
 捨るより外の術ありままどと小児の雁を歩眺めて涙を浮
 先竟に胸を定め結旦未明に此の旅店を出で人の行末の
 繁うぬ肉速く捨つてと心の内に其場所をける折のら子履
 川の路にさしより杖を金く明に逃げ且村積をふかふ去

家の影下に戯子とト園ま石使やる方々さハ海が舟のとを父
 も汝を連れていふ母の成りも淋なり此上運を天に任せ若
 き人に捨るわく天晴成昔一喜にわ我を父と思ふか
 くと物心知りたる者に云如く小児に向て昔も亦一涙を押
 拭ひ蘇梅垣り振守思切くをまゆる實に捨らるる血の初
 由りくも捨る親の身をき傷が寒る物に程々に傍見分
 ぬ形壽の暗室もまにさも似てりり老き傷跡に心は残りぬ
 こと人に見詰めらるるあけりりなん心強くも迷くは
 場をまり是より途をまめて漸くそまむに着ぬ折若き婦
 が程族の若く漢草と乳山の麓に住み水菜屋の世後そ一戸

高唐の甲州屋とて人も知りたる商家あはれむに在りて身と定め玉
 へと。只管に洗筋めたり。もまはハ初くと梅子と身ね同の程と地
 に至つて。甲州屋の字を拜とす據るに。そく心に添ひけまは竟
 に淫言淫に淫流の決心と述べ彼の中学院に赴きて信に嫁
 迎の次第とあはれり。家留をみりて家産と有てる商家に余
 ざるやねば別て身の出世に有り。何年約しなむいごとく古意
 の令拜信と乞中へ。持業の令にせよとと。おと云へ。主
 信お高頭名他事の手書と揮つて。頼ふ交仰も有り。おねの意
 に百意の令を貸さ。ぬきまは流るる方々を。淫言淫に
 違ておま令の才光とあはれり。媒め骨折偏にむむ。信を

おく信形まねを。淫言淫も其筋に感ん。一筋で信を。おね
 相違異後なく。誓ひ書目を推んで。婚姻せしめん。に定り。ねを
 書ま。別ち百意の令と持業と成り。おま申お屋の。おねの夫
 を。おねにぬき。しして。おまを。千之助と改め。いづく。移も。おね
 二人の。男子を。選り。兄を。子。弟と。おね。け。弟を。おね。と。おね。の
 夫婦。愛し。て。育て。り。常。下。生。別。流。後。川。に。お。一。個。の。信。信。の。控
 子。と。見。る。所。と。お。あり。腰。間。より。お。を。取。り。て。お。を。お。の
 社。を。信。け。一。二。筋。の。文字。を。書。印。して。其。信。に。お。お。お。か。ら
 其他。の人。と。捨。子。の。有。り。と。見。て。お。高。後。あ。し。先。づ。お。を。抱
 き。据。て。お。お。の。重。に。文字。書。け。り。有。り。誰。人。の。書。し。と。お。を。信。に。

海父に跡をたどる母に跡をたどる。父母控不承す。是自分分の爲令
 之元福二年九月貧歴と草書小く認たり。而く續けしきども。
 其人之知由色。冷方なく縣令へ以へ出せられ見分の三村岡にお
 かき。取揚書有まきまき令有り。是に於て由兒と六村方の
 形りと成せし物なり。村内の農吏に久之徳つと信するあり。其
 一兒を分曉問もあきまき見病死せり。母くと是婦の高徳所。
 令るが應へ給ひ出で控子と申受け。子と成し育ん赴をよます
 るに。忽ち件客をきて。壁に任せ引渡さるたり。去む六村岡の人々
 控子の身の堂りとまき信び。未三徳を悉し。村長の平とあしぬ。
 久之徳の由兒を引取り。母と久へし付け。是婦を更に養

ひ育ぬる久へも健に育ち。九年と経く久へ八村岡の子供等と
 控子に控子と自ら思ふる有る久へ未三徳と知す。家に返つて
 若父母に母と尋問なり。久之徳つ主婦の涙と涙め。たに云るる
 もみ元海原より控まきて。此の故有し。我に申受け育て
 し。然しあき我子の成るるに押するあり。昔年の勲徳あり
 控子に祝言しけしき。久へ八村岡とす。り。紙方の形をたしを取けん。
 是後家の外面にわき控子と云はる。若父母に心控を不徳に
 思ひ。地をへ奉り。奉出さす。まにゆぐ。是婦も後をたし。久へあき
 控子に久へも好成し。わが難く生え入る。さんと。信し。知るるの
 人を尋る。小久を徳の我骨肉の身に。勲徳とす。若かり。出討事

都がもる密に任所すべし書一集けきく地をねんしう人露を深
 東にけいひり密に密影て密の密にきく人と密の密にきく人
 心決て之を密の密影の間と見合せ久人を將く遠く去りて
 一えつ中影の密に遠て久人が方の事由と密の密にきく人
 を密の密にきく人の密の密にきく人の密の密にきく人の密
 に密の密にきく人の密の密にきく人の密の密にきく人の密
 小南機を成し執調終て忽地年季の春空はど任述めぬ人
 大に密の密にきく人の密の密にきく人の密の密にきく人の密
 三州へを密にきく人の密の密にきく人の密の密にきく人の密

大岡村井長蒼調合札卷之七終

